

平成29年第1回定例会(平成29年3月24日)

予算決算特別委員会委員長(野口 哲男 委員長)

予算決算特別委員会は、去る3月2日の本会議において、付託を受けました「議第8号 平成29年度別府市一般会計予算」ほか、予算関係議案8件、及び「議第21号 別府市職員厚生会に関する条例の一部改正について」ほか、条例議案4件の計14議案についての審査をするため、3月13日から15日の3日間にわたり、委員会を開会し、会派代表者質疑並びに個人質疑において、慎重な審査を行いましたので、当委員会での意見と審査結果について、ご報告を申し上げます。

まず、「議第8号 平成29年度 別府市 一般会計予算」についてであります。

最初に、「交通体系整備促進に要する経費」及び「ひとまもり・おでかけ支援に要する経費」についてです。

超高齢化が加速する中、高齢者等の移動手段の確保は、喫緊の課題であります。

交通事故防止、外出機会の増加による介護予防、健康寿命の延伸にも効果が期待されるため、事業実施にあたっては、利用者の意見を十分に反映させるとともに、公共交通事業者との合意の上、事業実施主体である市と利用者と事業者の情報共有と合意形成が、目的達成に繋がるものであります。

また、「ひとまもり・おでかけ支援に要する経費」については、福祉施策全体において、財政バランスを保ち、「交通体系整備促進に要する経費」と十分連携をとって実施すべきであります。

次に、「4『B』i 地域産業イノベーション推進に要する経費」「創業支援に要する経費」「B-b i z L I N Kに要する経費」「竹産業のイノベーションに要する経費」についてです。

「べっふ未来共創戦略」における「産業の振興としごとの創生」の具体的な事業展開を実施する経費であり、「稼ぐ別府」の中核をなす事業です。

「稼ぐ力」の本質は、人材の育成であり、その環境が整った組織づくりを行うことが必要であります。

組織の人選にあたっては、マーケティング・マネジメント等、様々な角度から成長分野を発展させることができる人材の確保が急務であります。

また、各組織が連携し、効率的に事業展開ができるよう、明確な目標数値を設定したうえで、事業を実施すべきであります。

次に、「新エネルギー導入に要する経費」についてです。

東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故以来、国のエネルギー施策は定まっておらず、温泉熱発電の位置づけも流動的です。

市民においては、温泉資源の維持、景観、近隣住民の理解等、様々な懸案事項がある為、事業の実施に当たっては、市の方針をより明確にするとともに、慎重な対応を求めるものであります。

次に、「職員人件費」についてです。

現在、職員の3人に1人が非常勤・臨時職員です。

また、定員適正化計画においては、正規職員数の抑制が目標数値であり、病気休暇や育児休業等を取得中の職員数も含まれています。

現行の市民サービスを維持していく為にも、非常勤・臨時職員を加えた定員適正化計画を作成すべきであります。

また、政府の唱える「働き方改革」の動向にも注意しながら、事務事業の改善等に積極的に取り組むことを求めます。

次に、「議第9号 平成29年度別府市国民健康保険事業特別会計予算」「議第14号 平成29年度別府市介護保険事業特別会計予算」「議第15号 平成29年度別府市後期高齢者医療特別会計予算」についてであります。

超高齢化社会が加速する中、福祉サービスの需要が減少することは見込めません。

限られた財源の中での福祉サービスを維持していくためには、健康寿命の延伸に対する取り組みが必要不可欠であり、全部署が連携して、効率的かつ効果的な事業を実施することが必要であります。

次に、「議第10号 平成29年度別府市競輪事業特別会計予算」についてです。

競輪事業の施設整備においては、公共施設として、より多くの市民が活用できる施設とすべきであります。

災害時や日常の健康づくり等にも活用でき、公園等、近隣の社会資本と連携することで、より一層の市民サービス向上につながることを期待します。

次に、「議第16号 別府市水道事業会計予算」については、「配水管整備事業」と「鉛管対策給水管連絡替事業」についての質疑が縷々なされました。

最後に、「財政運営」についてです。

当市における依存財源の割合は高く、自主財源の確保が課題です。

市税においては、固定資産税の増収により、若干の増加を見込んでいるものの地方消費税交付金、地方交付税（普通交付税）は、減収の見込みとなっております。

また、その財政負担を補う為、財政調整基金等の繰入金が過去5年間で最大

の金額となっています。

平成29年度の予算編成においては、「べっぷ未来共創戦略」に基づく「しごとの創生」「稼ぐべっぷ」を中心に、将来（未来）への投資が積極的に行われる予算であると理解します。

各分野での「成長戦略」は、将来の自主財源の確保に大きく寄与するものと考えられますが、財政に対する不安はぬぐいきれないものがあります。

今後、少子高齢化の加速による市税収入の減少や公共施設再編に伴う多大な財政支出が予想される中で、各「成長戦略」の具体的な数値目標を明確にする必要があります。

よって、持続可能で安定した財政運営の為、「第3次行政改革大綱」とそれに続く「第4次行政改革推進計画」を早期に策定し、取り組むことを強く求めます。

また、市民に対しては、その内容を情報開示することで、財政に対する不安を解消できるものと確信しています。

以上、57事業 77項目にわたる質疑がなされたのに対し、採決の結果、「議第8号 平成29年度別府市一般会計予算」

「議第14号 平成29年度別府市介護保険事業特別会計予算」

「議第15号 平成29年度別府市後期高齢者医療特別会計予算」

以上、3件につきましては、一部の委員から反対の意思表示がなされましたが、賛成多数をもって原案のとおり、可決すべきと決定した次第であります。

続きまして、

「議第9号 平成29年度別府市国民健康保険事業特別会計予算」

「議第10号 平成29年度別府市競輪事業特別会計予算」

「議第11号 平成29年度別府市公共用地先行取得事業特別会計予算」

「議第12号 平成29年度別府市公共下水道事業特別会計予算」

「議第13号 平成29年度別府市地方卸売市場事業特別会計予算」

「議第16号 平成29年度別府市水道事業会計予算」

「議第21号 別府市職員厚生会に関する条例の一部改正について」

「議第22号 別府市職員の給与に関する条例及び単純な労務に雇用される職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部改正について」

「議第24号 別府市手数料条例の一部改正について」

「議第25号 別府競輪市民広場の設置及び管理に関する条例の一部改正について」

「議第26号 別府市国民健康保険税条例の一部改正について」

以上、11件につきましては、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決定した次第であります。

以上で、当委員会に付託を受けました議案14件に対する意見と審査結果の報告を終わります。

本定例会において、予算・決算審議の循環性を図る為、議員全員からなる予算決算特別委員会を設置いたしました。

議会基本条例の理念であります「市民に開かれた議会」と「市民の多様な意見を的確に把握し、議会審議の充実を図る」ことが目的であります。

議会といたしましても「議決」に対する市民への説明責任を果たすため、一層の議会審議の充実を図ってまいりたいと考えていますので、執行部の皆様方のご協力を今後ともよろしくお願いいたします。

最後に、議会と行政の共通の目的は、「市政の発展」と「市民福祉の向上」です。

議会と行政の運営は、お互いに、市民の「信用」と「信頼」の付託のうえに成り立っていることを強く自覚し、今後とも、目的達成の為に取り組んでまいります。

何とぞ、議員各位のご賛同をお願いいたします。